

第4回日本インターネットガバナンス会議(IGCJ)レポート

1. 会合の概要について

開催日時： 2014/11/20(木)19:00～20:30

会場： 富士ソフトアキバプラザ(秋葉原) 6階セミナールーム 1

URL： <https://www.nic.ad.jp/ja/materials/igconf/20141120/>

1.1. 参加状況

参加者数：実参加 49名、中継（ユニーク視聴数）9名

1.2. アジェンダ（発表者敬称略）

1. IANA 監督権限の移管に関するアップデート
一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター(JPNIC) 前村 昌紀
2. ITU 全権委員会議(PP-14)の結果概要について(インターネット関連)
総務省情報通信国際戦略局国際政策課 米子 房伸
3. 「IGCJ を考える会」報告
株式会社日本レジストリサービス 堀田 博文
4. IGF2014 レポート
東京大学 江崎 浩（代理：JPNIC 奥谷 泉）

2. 質疑応答内容

原則として、A の部分は発表者による発言です。

2.1. IANA 監督権限の移管に関するアップデート

JPNIC の前村より、資料「IANA 監督権限の移管に関するアップデート¹」に基づき発表が行われた。質疑はなかった。

¹ IANA 監督権限の移管に関するアップデート
<https://www.nic.ad.jp/ja/materials/igconf/20141120/1-maemura.pdf>

2.2. ITU 全権委員会議(PP-14)の結果概要について(インターネット関連)

総務省の米子氏より、資料「ITU 全権委員会議(PP-14)の結果概要について(インターネット関連)²⁾」に基づき発表が行われた。発表内容に対する質疑応答の概要は、次の通りである。

- Q. インターネットガバナンス(IG)全体というよりも、ITU の場で結構 Internet eXchange (IX)の話が出ているようだが、IX コミュニティまでには全然聞こえてこない。「IXP (Internet eXchange Point)に係る接続料金が低い」といった論点が挙がっていたようだが、海外の状況を見ても、決して高いと言える状況でもない。各国に IX を置く動きがある中で、何がどういう課題になっているのか教えてほしい。
- A. 途上国から「IXPに係る接続料金が低い」ということで意見が出ているようだ。
- Q. 「国際的な非合法的な大規模監視の対策を検討すべき」という論点については、各国の意見が ITU の権限外なので反対するというのは、その通りで良いと思うが、どう対策するのが良いかという具体的な案は出ているのか。日本政府はどう回答しているのか。
- A. 情報の自由な流通を確保することが基本。それが阻害されるようなことが行われることには反対している。
- A. 人権、非合法的な監視問題に関しては、国連の中に人権委員会があり、そこで対応している。ITU は、専門機関として本来やるべき技術や人材育成等の取り組みに専念すべきとの指摘をしていた。ITU で不法監視を扱い、それを口実に規制を強化したいという思惑も見え、加盟国や国際機関が規制するべきとの方向になってしまうと、それを国内で正当化して実施する国が出てくる懸念がある。正論としての意見を述べつつ、そういうところを懸念して対応していた。IXの話は、支払い額は相対で決められるが、料金設定の透明性が欠けているのではとの指摘が途上国よりあった。(総務省)
- Q. 論点となっているのは、IXPではなく IPX (IP eXchange)なのではないか。オープン IX はコミュニティベースのボトムアップによるコンソーシアムでやっている。
- A. アクセスを途上国にも広げていくという議論からきている。ITU-T でも調査は実施しているので、そこで対応すればよいとのトーンでの話もあった。

2.3. 「IGCJ を考える会」報告

JPRS の堀田氏より、資料『「IGCJ を考える会」報告³⁾』に基づき発表が行われた。発表内容に対する質疑応答の概要は、次の通りである。

²⁾ ITU 全権委員会議(PP-14)の結果概要について(インターネット関連)
<https://www.nic.ad.jp/ja/materials/igconf/20141120/2-yonago.pdf>

³⁾ 「IGCJ を考える会」報告
<https://www.nic.ad.jp/ja/materials/igconf/20141120/3-kangaerukai.pdf>

- Q. IGCJ が扱うテーマの中には IGF もある。JP-IGF が IGCJ だと思っていたのだが、そういうものにしようということではないのか。
- A. すでに IGF-Japan があり、現に活動しているが、みんなが集まるように見えていない。外国から見た場合に、IGF の国別バージョンが必要。IGF-Japan のみではなく、いくつか提示できればと思っている。IGF-Japan についても、関係者が IGCJ に参加されていることでもあり、何らかの形で一緒にやっていければ、さらにはうまく融合していければよいと思っている。
- Q. 資源管理がメインのトピックになりがちかと思うが、IGCJ では、それ以外のテーマを扱うつもりはあるのか。
- A. セキュリティなども取り扱っていききたいし、どのようなテーマを取り上げるのが参加者みんなにとって有益であるか、みんなで話し合っていければと思う。基盤運用から、みんなが関わるようなテーマに少しでもテーマの中心が移っていければと個人的には思っている。
- Q. 議論の進め方で、責任をもった人が議論に関わっていければということだが、マルチステークホルダー(MSH)はどの組織がどんな風に責任を持てるのか。個人で責任を持てるのか。会社の意見を代表するのも少し違うような気がする。
- A. インターネットガバナンスについて理解している人だけが議論に参加するのではなく、分かっていないのに議論に参加する人もいる。分かっていないのに発言すると、実行可能性の如何を問わず言ってみたり、興味があるので取り敢えずこうしろと言ってみたり、というケースもある。それはそれで重要だが、それに引きずられて本質的な議論ができない状態に陥るのは避けた方がよい。そのために、一般向けとコーカス(Caucus)で分けてみた。一般の人の認知向上や一般の人の考えを聞く会と、コーカスで議論する会は分けた方が、議論が効率よく進むのではと考えて提示している。
- A. 責任をもった発言という意味で、何か分からないのについ口を挟んでしまうという事態は避けたい、ということ。マルチステークホルダーリズムについては、総務省の研究会報告書の中でも諸説あるのではないかと提示されているので、別の切り口で考えている。
- Q. 上記の説明ですっきりした。ただし、コーカスに、どういう人がどういう立場でどういう風に話すのかが気になった。
- A. 分類はあるが、それぞれの分類に対して様々な人の意見が入るように、状況を伝達していかなければいけない。いろいろな立場の人にそれらの状況を理解していただいた上で、それぞれの立場で発言をしていただける環境をしつらえることが大事、というのが趣旨だ。
- C. ICANN に参加している時に、個人の意見を言っているのか、所属団体として話さない

といけないのか、悩む時が時々ある。

- Q. MSH は本当にマルチなステークホルダーでないといけないが、コーカスは誰がどのように選別するのか。参加者は企業の利益や企業活動の視点をもってしまい、国内だと少ない印象がある。是非実現してほしいのは、批判的な議論ができる場にしてほしい、ということだ。的外れに聞こえるかもしれないが、世界の流れが左でも組織として右という場合もあり、ある立場からすると当然と思えることが、立場を変えれば当然とはならないということを忘れないようにしてほしい。
- A. コーカスとオーディエンスを IGCJ で分けるという考えではない。責任は持っていないが興味を持っている人も関わっていくことが大事だと思っている。いろんな意見を取り入れることはやっていきたい。
- C. コーカス、プロ、オーディエンスの 3 つに分けるのはよい。問題はここに来ない人、例えば企業の経営者層やスマホなどを使っている一般市民。ほとんど日本国民が、「IANA」と言われてもピンとこないだろう。それではいけないので、それらへのアウトリーチも、IGCJ のひとつのターゲットではないか。
- Q. 自分はオーディエンスに入ると思うが、ここに参加していない立場で、プロはどうやって選ばれるのかが一番気になる。プロとコーカスをどう分けるのか。無責任な発言についても、どういう立場で発言しているのかも変わってくる。ITU でも範囲外としてはねられた提案があったが、はねられた方はたまったものではないわけで、IGCJ ではプロの選び方が大事。プロから見えない部分を気にする人が出てくるので、3 つに分けるのはよいが、プロを選ぶ際の透明性確保が大事ではないか。
- A. 誰かがプロを選ぶというよりも、自薦だと考えている。試行錯誤もあるので、みなさんと協力して検討していきたい。
- A. プロと認識されるかどうかは、発言された結果どのような印象を持つのか次第だと思う。誰でも発言はできる。発言の結果、その人はプロだと見なされていたらプロと言えるのだろう。自薦というのはそういうところから来ると思う。

2.4. IGF2014 レポート

JPNIC の奥谷より、資料「IGF2014 レポート⁴」に基づき発表が行われた。質疑はなかった。

以上

⁴ IGF2014 レポート

<https://www.nic.ad.jp/ja/materials/igconf/20141120/4-esaki.pdf>